

愛媛県宇和島市鶴間川で採集されたヒメハゼ属の一種 D

京谷蒼馬¹・山川宇宙²・清水孝昭³¹東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科海洋資源環境学専攻²筑波大学大学院生命環境科学研究科生物科学専攻 ³愛媛県農林水産研究所水産研究センター写真1 *Favonigobius* sp. D ヒメハゼ属の一種 D (TKPM-P 27469)

種の記録

Gobiidae ハゼ科

Favonigobius sp. D sensu Momose (2024)

ヒメハゼ属の一種 D (写真 1)

標本 徳島県立博物館魚類標本 (TKPM-P) 27469: 標準体長 (SL) 15.7mm, 27471:19.0mm SL, とともに性別不明。鶴間川 (愛媛県宇和島市吉田町鶴間: 北緯 33 度 16 分 20 秒, 東経 132 度 32 分 15 秒). 2025 年 4 月 16 日, 手網, 山川宇宙採集。

種の特徴

2 標本は、頭高は体長の 14.0–14.2%, 吻端は眼の下縁を通る平行線付近に位置する, 頬の黒色斑は不明瞭で不規則に分布する, 左右の鰓蓋膜の癒合位置は眼の後縁と前鰓蓋骨後縁の間を通る垂線付近に位置する, 体背側に散在する小斑は鮮時, 黒ずんだオレンジ色で密集しない, 尾柄基底部の黒色斑は二叉しない, 第 2 背鰭と臀鰭の軟条数はどちらも 8 であるなどの特徴を有していた。以上の特徴が, 百瀬 (2024) のヒメハゼ属の一種 D の標徴と一致したため, 本種に同定された。

備考

本種は国内では千葉県および京都府から鹿児島県にかけて分布し (是枝ほか, 2024; 百瀬, 2024), 四国では高知県から記録されている (岡村ほか, 2023; 是枝ほか, 2024)。本稿は本種の愛媛県初記録となる。上記 2 標本は, 犬日大橋の約 50m 下流左岸にあった軟泥底から採集された。同地点は常に海水の影響下にあり, 中潮であった採集日の干潮時の水深は約 60cm であった。2 個体は 4 月中旬に採集されたことから, 本種は採集地点において越冬している可能性が高い。本種は主に黒潮の影響を受ける温暖な海域の砂泥質および泥質の河口域から前浜干潟にかけて出現するが (是枝ほか, 2024), 愛媛県においても南西部の愛南町の御荘湾周辺にはそうした環境が散

見されるため (山川ほか, 2025a, b), 本種の出現が予測される。今後, こうした場所を中心に採集調査を実施し, 本種の詳細な分布を明らかにしていくことが望まれる。

謝辞

標本の登録を行っていただいた徳島県立博物館の井藤大樹博士, および標本の観察にご協力いただいた東京海洋大学の山下龍之丞氏に深謝する。

引用文献

- 是枝侑旺・百瀬 樹・本村浩之. 2024. 薩摩半島から得られたミナミヒメハゼの記録, ヒメハゼ属の一種 *Favonigobius* sp. sensu Matsui et al. (2014) の国内における分布状況, および両種の標徴に関する新知見. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 40: 1–16.
- 百瀬 樹. 2024. 本州から得られたヒメハゼ属魚類 4 種の記録とその識別形質についての検討. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 45: 19–45.
- 岡村恭平・山上竜生・井上裕太・野村彩恵・遠藤広光. 2023. 高知県から得られたハゼ科 7 種の記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 35: 20–27.
- 山川宇宙・山本貴仁・山下龍之丞・清水孝昭. 2025a. 愛媛県南予地方で採集されたチゴイワガニ. 南予生物フィールドノート, 25008.
- 山川宇宙・山下龍之丞・清水孝昭. 2025b. 愛媛県蓮乗寺川で採集されたムツハリアケガニ. 南予生物フィールドノート, 25009.

(2025 年 6 月 21 日受付, 2025 年 6 月 24 日公開)

連絡先: 京谷蒼馬 (e-mail: kyo.soma.research@gmail.com) (Soma Kyotani, Uchu Yamakawa and Takaaki Shimizu. 2025. *Favonigobius* sp. D sensu Momose (2024) (Gobiidae) collected from the Tsuruma River, Uwajima City, Ehime Prefecture. NS Fieldnote, 25012)